

令和7年度進行管理

戦略点検シート

◎基本政策2健康で安心な生活基盤の整備

主要課題	No. 18	フレイル予防及び介護予防・地域での支え合い体制づくりの推進
------	--------	-------------------------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●		主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。
4年後の目指す姿	元気高齢者が地域活動や様々なサービスの担い手となり、住民主体の通いの場等を活用しながら、介護予防と生きがいづくりが推進され、区民の健康寿命の延伸が図られている。	
計画期間の方向性	○フレイル予防及び介護予防の推進・活動の場の充実 身近な地域で介護予防活動に取り組むことができる機会を提供し、望ましい健康行動の実践を促します。また、住民同士が助け合い、支え合う地域環境の構築に取り組むとともに、ハイリスクな高齢者を早期に発見し、適切なサービスにつなげていきます。 ○社会的役割を担うことによる生きがいづくり 区民ボランティアが地域で自発的なフレイル予防活動を推進する役割を担えるよう、支援していきます。また、地域活動の活性化が図られるよう、相談・支援に応じるとともに、活動につながっていない地域の個別の事案等を、適切な活動に結び付ける参加支援にも取り組んでいきます。	

事業費（令和6年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割							事業費(千円)
73	介護予防事業の推進	高齢福祉課	生活機能に低下がみられる高齢者を介護予防活動につなげ、地域における自主的な活動を推進する。							23,571千円 (34,833千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	
	① 介護予防把握事業（健康質問調査票の回答者数）		人	4,746	5,039	4,531				
	② 介護予防ボランティア指導者数		人	113	110	110				
	③ 文の京介護予防体操地域会場参加者		人	677	567	467				
	④ シニアのためのフィットネス教室の実施箇所数		所	6	8	10				
	R6(2024)	③文の京介護予防体操地域会場は、令和5年度中にコロナ禍前の開催方法へ戻しています。6年度実績が減少した事業は、住民主体の通いの場等に、一定数が移行していることも想定されることから、参加者数の動向に注視していきます。								
74	文の京フレイル予防プロジェクト	高齢福祉課	住民主体の通いの場と連携した、継続的なフレイル予防を推進する。							2,070千円 (2,688千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	
	① フレイルサポーター養成講座受講者		人	16	16	16				
	② フレイルチェック参加者		人	346	358	411				
75	地域介護予防活動支援事業（通いの場）	高齢福祉課	区民が活動の主体として、高齢者の支え合い・見守りの関係性を構築する。							8,706千円 (8,820千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	
	① 住民主体の通いの場（かよい〜の）への助成		件	28	32	38				
	② 住民主体の通いの場（かよい〜の）への参加者数（実人数）		人	567	673	875				
	③ リハビリテーション専門職の派遣団体数		団体	5	3	3				
76	生活支援体制整備事業	高齢福祉課	住民等の多様な主体が参画し、地域の支え合い体制づくりを推進する。							27,498千円 (33,936千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	
	① 生活支援コーディネーターの配置		人	10	10	10				
	② 生活支援コーディネーターの地域活動件数		件	1,185	1,339	1,721				
66	小地域福祉活動の推進	福祉政策課	住民が主体的に地域課題を把握して、解決を試みる体制づくりを支援する。							35,394千円 (36,059千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	
	① 地域福祉コーディネーターの配置		人	10	10	10				
	② 地域福祉コーディネーターの個人支援の新規件数		件	64	84	92				

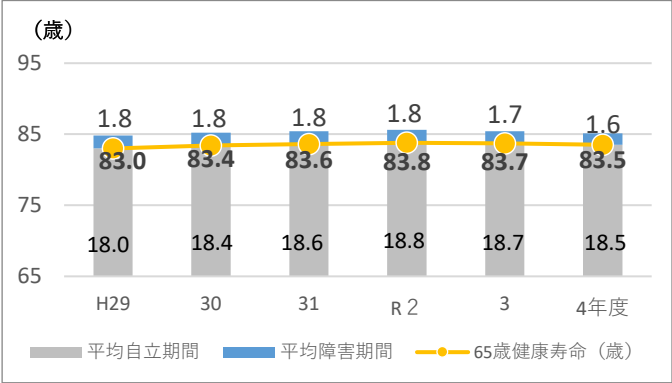
77	元気高齢者の社会参画支援事業	高齢福祉課	地域活動の担い手として社会的役割を持つことで、生きがいづくり・介護予防を推進する。	25,574千円					
				(30,170千円)					
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① ミドル・シニア社会参加推進事業参加者		人	82	92	88			
	② 介護施設ワーク・サポート事業 介護施設お助け隊		時間	10,380	11,673	12,916			
	③ ミドル・シニア目線を活かした発信力強化事業参加者		人	117	131	104			
	④ 高齢者向けスマートフォン教室参加者		人	223	318	205			
⑤ 高齢者向けスマートフォン相談会参加者		人	105	244	356				
78	地域の支え合い体制づくり推進事業	福祉政策課	高齢者・障害者・子育て世代等の地域での交流を促進する。	3,155千円					
				(3,690千円)					
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
① ふれあいいきいきサロンへの助成		件	146	147	131				
79	シルバー人材センターの活動支援	高齢福祉課・介護保険課	高齢者の知識や経験、意欲を地域経済や福祉の増進に生かし、健康寿命の延伸を図る。	56,128千円					
				(55,392千円)					
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① シルバーお助け隊の派遣		件	239	231	205			
② 買い物支援おたがいさまサービス利用回数		回	65	54	156				
●特記事項（実績の補足）									

2 社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	

3 成果や課題は何か（点検・分析）	1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
○フレイル予防及び介護予防の推進・活動の場の充実	
シニアのためのフィットネス教室については、教室を実施するフィットネスクラブを新たに2か所登録し、身近な地域で運動に取り組める機会を提供しました。生活支援体制整備事業では、生活支援コーディネーターが住民主体の通いの場（かよい〜の）を含めた地域の支え合い体制づくりを推進する活動を行い、介護予防の推進につながりました。 文の京フレイル予防プロジェクトについては、区有施設での公募型フレイルチェックや地域の活動場所に出向いて行う出張型フレイルチェックに加え、申し込み不要で参加可能なフレイル予防フェスタを新たに実施することで参加機会の拡充に取り組みました。あわせて、フレイル予防に関心のある区民を対象にフレイル予防教室を実施し、フレイル予防に関する知識の普及・啓発を図りました。 引き続き、住民にとって身近な場所で気軽にフレイル予防・介護予防に取り組むことができるよう、参加者のニーズを踏まえた取組を推進する必要があります。	
○社会的役割を担うことによる生きがいづくり	
文の京フレイル予防プロジェクトの推進に向け、区民ボランティアであるフレイルサポーターの募集を行い、新たに16人のフレイルサポーターを養成しました。また、シルバー人材センターによる介護施設お助け隊の年間累積就業時間数が過去最大を更新するなど、高齢者の就業支援に向け着実に成果を上げています。さらに、長寿ふれあい食堂補助事業により、地域の2か所の居場所を対象に、高齢者を対象とする食を通じた地域の交流の場づくりの支援を行い、高齢者同士の交流促進を図りました。長寿ふれあい食堂では、フレイルサポーターなどの区民ボランティアが少しずつ運営に関わるなど、高齢者が地域の様々な場所で社会的役割を担うことにも寄与しています。 引き続き、高齢者が様々な地域活動への参加を通じて社会とのつながりを持つことができるよう、地域の多様な主体による活動を発信することでより一層の社会参画を推進する必要があります。	

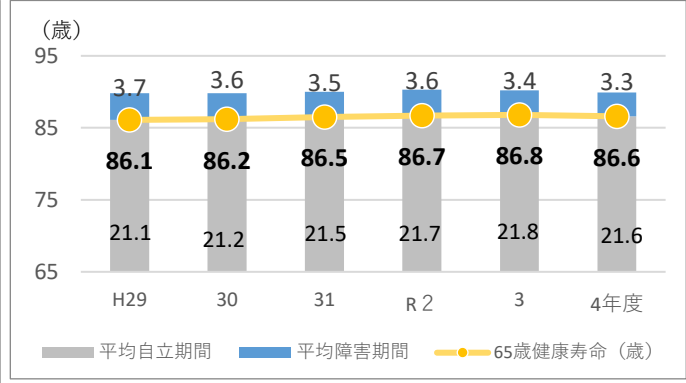
●男女別健康寿命と自立期間

男性



女性

資料：ぶんきょうの保健衛生（令和6年度版）



【SDGsの視点】



フレイル予防や介護予防の事業を通じて望ましい健康行動の実践機会を提供するとともに、住民同士が助け合い、支え合う体制づくりを推進することで、高齢者が安心して暮らせる地域社会の実現に寄与しました。



元気な高齢者が地域での様々なボランティア活動に参加することや、住民主体の通いの場や地域での居場所において住民同士が支え合う活動を通じて、効果的な市民社会のパートナーシップの推進に寄与しました。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。

フレイル予防・介護予防では、フレイルチェックや予防フェスタ、体験型の予防教室など、普及啓発に向けた多面的な取組を推進するほか、ICTの活用による運動習慣の定着化を支援することで、フレイル予防を一層促進します。また、住民主体の身近な通いの場（かよい〜の）において、参加者同士の交流と健康に関する情報交換ができるよう継続的な支援を行うとともに、SNSによる情報発信を通じフィットネス教室への参加を促進するなど、介護予防に資する多様な取組を推進していきます。

生きがいづくりでは、引き続き地域の居場所で展開する長寿ふれあい食堂への補助事業を通じて、地域住民と専門職が関わる機会を提供するとともに、地域住民が担い手として活躍できる場になるよう、多様な主体と連携し参加の在り方を支援していきます。また、シルバー人材センターを通じた就業機会の提供や、ふれあいいきいきサロンなど住民に身近な地域での支え合いを推進し、元気高齢者が社会参画を通じて生きがいを実感できるよう支援していきます。